

お だいら な み へ い

# 小平浪平

ひ た ち せ い さ く し ょ そ う し  
日立製作所の創始者 日立市



(日立製作所日立事業所提供)

明治7年(1874) - 昭和26年(1951)。栃木県下都賀郡家中村〔栃木市都賀町〕生まれ。第一高等中学校〔旧制第一高等学校の前身で現・東京大学〕を経て、東京帝国大学工科大学電気工学科〔東京大学〕に入学。卒業後、藤田組に入社、小坂鉱山(秋田県)に電気主任技術者として赴任。日立鉱山を買収した久原房之助の誘いを受け、明治39年(1906)に久原鉱業所日立鉱山に入社し工作課長を務める。外国製の鉱山用変圧器と電動機の修理の仕事に携わり、修理の過程で原因と制作方法を研究し、明治43年(1910)に5馬力誘導電動機3台を製作。大正9年(1920)に久原鉱業所から独立して株式会社日立製作所を創立。昭和43年(1968)に県知事より明治百年記念特別功績者として表彰される。

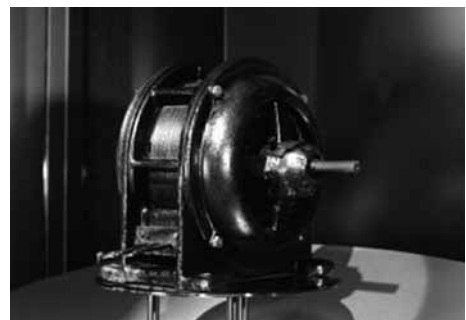
小平浪平は、<sup>とちぎ しもつ がくにいえなか</sup> 栃木県下都賀郡家中村〔<sup>きゅうか</sup> 栃木市都賀町〕の旧家小平家の二男として生まれました。地元の小学校に入学しましたが、これからは学問が大事であると考えた父は、浪平を自宅から離れた<sup>はな</sup> 栃木高等小学校に転校させました。明治21年(1888)小学校を卒業した浪平は、父や兄の勧めで東京に出て、第一高等中学校〔旧制第一高等学校の前身で現在の東京大学〕への入学を目指します。すでに医者を目指して東京で学んでいた兄は、明治22年(1889)に同校に合格しました。翌23年に浪平も同校を受験しましたが不合格でした。その年父が病気で亡くなり、兄は家族の面倒を見るため、医者への道をあきらめて、<sup>しゅうしよく</sup> 地元の銀行に就職することになりました。

(合格の知らせを届けられなかった父のためにも、そして、家族のために自分の夢をあきらめた兄の思いに応えるためにも、来年は絶対に合格しなければいけない。)

こう決心した浪平は、勉強にうちこみ、翌24年に競争率17倍の試験に見事合格し、第一高等中学校に入学しました。

明治27年(1894)、4年生になった浪平は、<sup>しょうらい</sup> 将来工学の勉強をしようと考えていましたが、工学のなかのどの分野に進むか迷って<sup>まよ</sup> いました。浪平は、小学生のときに勉強を教わり、当時東京で小説家として活躍している<sup>むらいげんさい</sup> 村井弦斎に相談しました。村井は、「これからの社会は工業の中でも電気が注目され、電気の世の中になる。」と浪平に語りました。浪平は大学で電気工学を学ぶことを決心し、明治29年(1896)、東京帝国大学電気工学科〔東京大学〕に入学します。

明治33年(1900)、大学を卒業した浪平は、秋田県の<sup>こさかこうざん</sup> 小坂鉱山に電気技術者として就職しました。浪平はこの鉱山で、後に日立鉱山を経営する<sup>くはらみさ</sup> 久原房



5馬力誘導電動機

之助に出会いました。

その後東京電灯会社に移った浪平は、明治39年(1906)7月、汽車の中で偶然出会った大学時代の同級生と同じ旅館に泊まって語り合いました。浪平は、「久原さんに日立鉱山に来るように誘われている。今日本で使われている電気機械は外国製である。ぼくは、日立鉱山で自分たち日本人の手で電気機械を製作する仕事をしたい。」と熱心に話しました。同級生は「鉱山では電気機械の修理の仕事ぐらいしかできないのではないか。鉱山に行くべきではない。」と言いましたが、浪平は「最初は修理でも仕方がない。それから経験を重ねていけば自分で作れるようになる。」と決意を語りました。こうして、その年の10月に日立鉱山に就職します。

浪平は、小屋のような小さな修理工場で、わずか5人の仲間と外国製の機械の修理をしながら、その仕組みを調べて研究を重ね、ついに明治43年(1910)3月、自分たちの手で5馬力のモーターを完成させました。そして浪平は、久原に電気機械を製作する工場の建設を認めてもらい、その工場はその年の11月に完成し、日立製作所と名付けます。大正9年(1920)には、久原鉱業所から完全に独立して日立製作所となりました。その後も、機械を作るのに失敗したり、工場が火災にあたりました。第二次世界大戦では、空襲などで工場で働く人が亡くなったり、建物も大きな被害を受けたりしましたが、浪平はくじけることなく、粘り強く仕事に取り組みました。

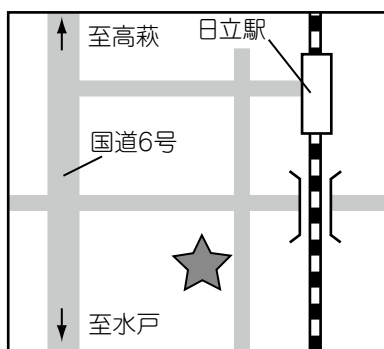
浪平は、昭和26年(1951)に77歳で亡くなりますが、わずか5人で始まった電気機械の修理工場は、現在では世界的に知られる大きな会社に成長しました。

## ゆがりのスポットに行ってみよう

### 小平記念館

所在地 日立市幸町3-1-1(日立製作所日立事業所内)

内容 小平浪平の業績と創業の志を永く後世に伝えるために、昭和31年(1956)に建てられました。



### おもな 参考文献

『技術の日立を築いた人—小平浪平ものがたり—』(倉持正夫・教育企画出版・1987)

『特別功績者小伝』(茨城県・1969)